

産業資源循環の 底チカラ

—vol.3—

近藤産興株式会社

飛島工場長

三芳 哲也さん

時代が望む“再生＝Re”的
理念を実現化することが
近藤産興の“シゴト”です。

繰り返して使う、直して使う、再生して使う…



環境の世紀を先駆けて
快適な地球環境を保全する

日本経済の復興期には建物や道路などのインフラ整備、高度経済成長期の終盤には公害や産業廃棄物問題、オイルショック時には省エネ・省資源、近年では地球環境保護と様々な社会的課題と真摯に向き合ってきた「近藤産興株式会社」を取材しました。

時代に先駆けた先見性 未来力を發揮し 人と社会に広く貢献



終戦後の1947年(昭和22年)、各社工場内の機械類の塗装や建物を風雨から守るための外壁塗装業として創業、道路の区画線設置工事にも参入し、營繕工事、機械整備など事業の幅を広げながら、建設用仮設機材のレンタルを始めました。当時の建設業界には貸す、借りるという概念がほとんどなく、レンタルという言葉さえなかった時代に、“繰り返し使う=貸す”という画期的なアイデアを投入しました。この事業が現在では一般の方にも広く知られるようになつた“何んでも貸します”的近藤産興の原点となっています。

現在は、イベント企画の立案から会場設営・撤去までをトータルでサポートする「イベント事業」、アトラクション用品、イベント用品、生活用品等のレンタルサービスを行う「商品レンタル事業」、要介護者を対象とした在宅介護用品の「介護用品レンタル事業」など多彩な事業を開拓しています。



愛知産業資源循環協会の会員企業を訪問し、それぞれの企業が持つこだわりや強みを取材・紹介する企画です。企業の独創的でユニークな発想や考え方、業界を盛り上げようとする姿勢に迫りながら、愛知県における経済活動のアンカーマンとしての役割を担う産業廃棄物処理業の社会的地位向上を目指し、その必要性をより広くの方に知つていただければと思います。

産業資源循環の
底チカラ ▶詳しくはP58まで

掲載希望大募集中!!

「我が社こそは!」という
熱い想い、お待ちしています!

A graphic element featuring stylized illustrations of industrial vehicles, including a white truck and a green forklift, positioned on either side of the main headline.

産業資源循環の
底チカラ とは?
と/or



商品レンタル事業及びイベント事業で不要になったものを再利用している様子



資源の有効活用と環境負荷低減に向けた取り組みの一例として展示



焼却灰を溶融し再生骨材として活用したサンプル。資源循環の実践例

高度経済成長による公害と産業廃棄物問題 困難にも負けず時代のニーズに果敢にチャレンジ

高度経済成長の時代が終焉を迎えるとする頃、公害と産業廃棄物の処理が大きな社会問題となっていました。産業廃棄物の処理はあらゆる産業にとって必要不可欠な分野でしたが、その処理システムを構築するには巨額の投資が必要で、“火中の栗を拾う”ような困難な事業でした。しかし、他社に先駆けて1971年（昭和46年）に「産業廃棄物

処理部門」を新設。愛知県海部郡飛島村に処理プラントを併設した飛島工場の建設を開始し、1975年（昭和50年）にはプラントを完成させ、本格営業をスタートさせました。現在では、産業廃棄物は国家レベルの問題として法整備も進み、広く注目も集めていますが、50年ほど前にこのような事業を立ち上げた先見性には驚きます。



豊富な実績を活かした 4つの焼却システムで安全、確実に焼却

産業廃棄物および特別管理産業廃棄物の収集・運搬業に関しては、東海4県を中心に関西・関東圏を含め多くの自治体から許可を取得しています。こうした体制をもとに、各エリアの排出事業者の幅広いニーズに応えています。

収集した廃棄物は減量化を図るため、自社焼却プラントで中間処分を行います。主には廃プラスチック類・医療廃棄物・汚泥・紙くず・繊維くず・木くずなどを焼却する「ロータリーキルン炉」。ロータリーキルン炉から送り出されてきた廃棄物の完全焼却のほか、粘度の高い缶入り塗料などの廃油を主な対象とし、ペースト状廃油(グリス・ボンド・インク等)、固形塗料(一斗缶・ペール缶入)などの廃棄物を焼却する「揺動式ストーカー炉」、ドラム缶に付着した廃油類、さまざまな素材が複合している廃棄物を焼却する「台車炉」、粘度の低い廃油および高含水汚泥を焼却する「バーナー噴霧」といった4つの投入方法で焼却します。システムを使い分け、効率よく、可能な限り完全燃焼を図ることで、

二次公害の原因となるばいじんや大気汚染物質の排出を抑えるという優れた環境保全設備を備えています。

自社プラントでの中間処分後に発生した残渣(焼却灰・ばいじん)はすべて提携している処分場へ運びますが、その残渣を溶融して、約6割は代替石材として路盤材や護岸工事、または土木資材に使用され、約3割は水や酸素等に分解、残りは亜鉛や鉛、金・銀・銅・鉄などの金属類が含まれる溶融メタルとして固化され、再資源化を図っています。そのほか、残渣を造粒して直接、土木資材に利用されることもあります。

さらに、事前の丁寧な仕分け作業はもちろん、受け入れる廃棄物のタイミングや量をコントロールすることで、焼却効率を高めることも実現。工場内外の環境保全、清掃活動を毎日実施しているため、お客様からも驚かれるほど工場はキレイに保たれています。長年培った経験が日々の事業運営に活かされています。



搬入された廃棄物は、ピットクレーンにより
焼却炉へ投入され、焼却処分が行われる

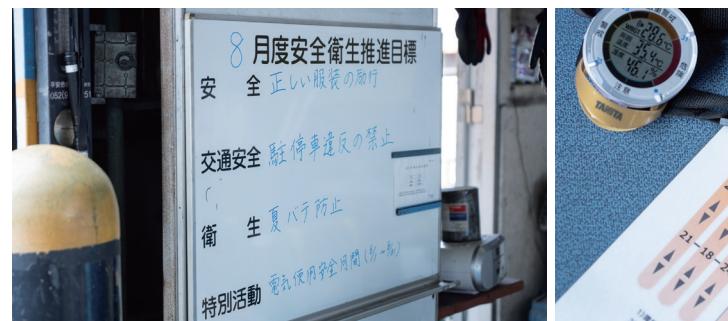


下から見上げた焼却施設。処分を支える
大規模な設備構造の迫力が伝わる

安全衛生情報 **ABOUT ヒヤリハット**

安全作業点検の当番も持ち回りで選定し、 日頃から安全への意識を高める啓蒙活動を実施。

荷崩れ、漏洩などが起きないよう、積み込み時に特に注意を払うよう注意喚起をしています。長年の実績で取引先との付き合いや関係性も深いため、社内外問わず情報交換や共有を行っています。また、近年火災の原因にもなっているリチウムイオン電池の危険性についても周知し、取り扱いに注意を払うようにしています。当然、屋外での作業が多いため、熱中症の予防にも配慮しながら営業を行っています。





環境保全と適正処理をキーワードに 一貫した処理体制で社会の潮流に的確に応えていく

工場長の三芳哲也さんは、「コロナ禍には、名古屋市のコロナワクチンの接種会場での設置・撤収、医療廃棄物の処理までを一括で受けられる会社がなく、弊社で請け負いました。必要なガーゼといった備品などのレンタルにも対応させていただいたのですが、金曜日に区役所の業務が終わった後に会場の設置を行い、土曜日から接種を開始、日曜日の夜に撤収するというサイクルで回していました。様々な事業を展開していることもありますが、社会が困つ

ていることを助けるという風土が社内にはあります」と力強く話します。

目まぐるしく変化する社会と新たに生まれる大きな社会的課題に対し、“困っていることがあれば助けたい”という創業時の志を胸に、時代を先取りした真に必要なサービスを提供する近藤産興。これからどのような未来力を発揮し、社会に貢献していくのか今後も注目し続けたいと思います。



焼却処分で発生した残渣。このあと溶融などの工程を経て再資源化される

社内だけではなく、
取引先とも
積極的に情報共有！



Message
社会の役に立つために何ができるのか？
時代の変化に応え、
事業を通して社会に貢献する

弊社は1947年(昭和22年)の創業(会社設立は1964年(昭和39年))以来、「社会に役立つために何ができるのか?」、「どうしたらそれは続けられるのか?」を自問し、事業を行なながら「身の丈にあった」社会貢献に取り組んでまいりました。

弊社の経営理念は、「時代の変化に応え、事業を通じて社会に貢献する」であります。そのあるべき姿は「お客様のために真に役立つ会社」であり、のために、私たちは日々実践すべきこととして「今日一日朗らかに安らかに喜んで進んで働きます」を掲げています。

私たちはこういった考え方、心構え、心がけで、お客様に尽くし、そして社会にますます貢献する所存であります。

代表取締役 近藤 昌三さん



近藤産興株式会社

〒457-8535 名古屋市南区浜田町1丁目10番地

【飛島工場（産業廃棄物処理施設）】

〒490-1435 海部郡飛島村大字梅之郷字東梅15番地

TEL 0567-55-2847 / FAX 0567-55-0506



WEBSITE